

ASDO、東設事協、日積事協関東、東事協の4団体が協議会設立/人材確保など課題共有

Tweet いいね! 0

[2019-07-24 2面]



会見する左から児玉会長、山内会長、武井会長、高倉支部長

東京構造設計事務所協会（ASDO、山内哲理会長）、東京都設備設計事務所協会（武井一義会長）、日本建築積算事務所協会関東支部（高倉東支部長）、東京都建築士事務所協会（児玉耕二会長）の4団体は、「東京建築設計関連事務所協会協議会」（TARC=ターク）を設立した。建築設計分野の発展に寄与するため建築設計関連事務所の業務全般にかかる諸課題について協議する。当面は、人材確保策、法改正への対応、行政施策への要望などを重点テーマに意見交換し、課題を共有する。各団体のトップは23日に都内で会見を開き、協議会への期待を口にした。児玉会長は、「これまで団

体としての連携、意見交換はあまりなかった。さまざまな課題の解決に向けて知恵を出し合っていきたい」と述べた。

山内会長は、「各分野のプロフェッショナル団体が同じプラットフォームに立つことは大きな意義がある。互いに協力、研さんし合うことで、いままで以上に社会ニーズに応えることができると確信している」と力を込めた。

また、武井会長は「生産性向上、働き方改革の一端を担える場として期待している。技術者不足などに対応できると思っている」と協議会の活動に期待を込めた。

高倉支部長は、「BIMは積算事務所にとって大きな脅威になっている。われわれがどう生き残っていけるかについて情報を交換し、対策を検討していきたい」と述べた。

協議会の設立に当たっては、東京都建築士事務所協会が3年前から各団体に呼び掛け、事務局レベルで具体化に向けた調整を進めていた。

23日の会見で東事協の加藤昇副会長は「副会長を9年務めているが、他団体のセミナーなどに参加してきて、後継者問題や若者離れ、働き方改革などさまざまな課題を聞き、課題解決に向けて各団体に声掛けしてきた」と設立の経緯を説明した。

協議会は3月に準備会を立ち上げ、10日に初会合を開いている。